

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立加唐小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的コミュニケーション能力の育成に向けた研究の継続により、児童生徒が主体的に学ぼうとする力や発達段階に応じた「話す力」「聞く力」を高めることができた。</li> <li>極少数のよさを生かした個別の対応を充実させることで、学習面・運動面・生活面において十分な高まりや結果が見られた。</li> <li>職員間の連携、学校と家庭・地域との連携を十分に図りながら、一体感のある教育活動を展開することができた。</li> </ul>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p>夢をもち たくましく 挑戦する 児童生徒の育成</p> <p>— 郷土愛 自律 協働 —</p>
----------	-----------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①地域とともにある学校づくり（体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動）</p> <p>②離島へき地教育の推進（児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究・タブレット端末の活用）</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	取組内容	成果指標（数値目標）			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上とする。	・小中学校の職員でマイプランを共有し、取組の促進を目指す。 ・児童生徒の実態を教職員間で共有し、個別に必要な指導を行う。	A	・職員間での連携がより円滑になり、児童の実態把握や必要な指導を共有しながら実践することができた。 ・アンケートの「教職員間での児童生徒の情報交換」における項目は100%を達成した。
	○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	○12月実施の県学習状況調査、1月実施のCRT標準学力検査において、全ての学年・教科で県平均、基準値を上回るようにする。	・家庭学習において復習的な課題を出し、基礎・基本の定着を図る。 ・定期的に確認テストを実施する。必要に応じて補充学習を行う。	B	・11月に実施した学校評価アンケート調査で授業内容の定着について肯定的に回答した児童生徒が86%。 ・必要に応じて個別の補充学習を実施することができている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答する児童生徒を80%以上にする。	・各教科、特別活動など教育課程全般において道徳教育の推進を図るよう教職員間の共通理解を図る。	A	・「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答した児童生徒が87.5%、保護者が85%と前年度より良い結果となった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上とする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を行う。	A	・11月に実施した学校評価アンケート調査でいじめのない学校づくりについて肯定的に回答した教職員が100%であった。 ・いじめの対応、差別問題に関する職員研修を計2回実施した。また、気になる子どもの様子について全職員で話し合い、共有することができた。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて挑戦する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（1・2・3・4・6年生）、生徒（3年生）100%にする。	・各行事で、児童生徒の自主性を生かし、計画、実行、振り返りを行わせる。 ・総合的な学習の時間で、「島の魅力」について調べる学習を行う。	B	・100%を目標としていたが、77.5%と他の質問項目と比べると低い数値であった。これは、児童生徒が具体的な取組の内容と「将来の夢や目標」とを関連したものとして捉えていないからではないかと考える。来年度は、これまで通り児童生徒の自主性を生かしながら、教師の話の中で、児童生徒を賞賛し、将来の夢や目標について考えさせる場面を設定していきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を100%にする。	・毎日朝食を食べているかのチェックを行う。朝食を食べることやバランスよく食べることの大切さがわかり、意識して食べる態度を育てる。	A	・中間評価時から引き続き、毎日朝食を食べている児童生徒が100%であった。 ・給食時は、低学年を中心に苦手なものは先に減らし、完食できるように指導を行った。子どもたち同士で、配膳の仕方を話す様子も見られるため、これからも継続して指導していきたい。
	○健康に関する自己管理能力の育成	○帰宅時や食事前に丁寧に手洗いができる児童生徒を100%にする。	・正しい手洗いの方法を指導し、年間を通して啓発を行う。	A	・12月に手洗い指導を行い、洗うポイントを児童生徒と一緒に確認をした。翌日の給食時間より、手洗いの歌を流しながら、手洗いを実施している。音楽無しで、歌いながら手洗いを実施する子どもたちの姿も見られ、丁寧な手洗いの意識づけができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の徹底 ・長期休業日の年休取得の促進 ・部活動休養日の設定 ・学校閉庁日の設定	A	・時間外勤務は、月45時間を下回っている。長期休業中に年休取得推進期間を設け、働き方改革を推進することができた。来年度は、定時退勤日の徹底を図りたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	重点取組内容	成果指標（数値目標）			
○タブレット端末等のICT機器の活用	○職員によるタブレット端末の使用に係るスキルアップ	○タブレット端末の活用頻度が上がり、使用方法や指導方法の理解が向上した教員を80%以上にする。	・講師によるタブレット端末の活用の講義 ・先進校事例紹介 ・タブレット端末を使つての授業改善 ・タブレット端末による遠隔授業の試み	A	・ICTを活用した授業公開期間を設けた。お互いに参観することで職員のスキルアップにつながった。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>台風、荒天時などでも児童生徒の学びを止めないためにタブレット端末を持ち帰らせ、リモートによる授業を行うことができた。今後もリモートによる授業スタイルのスキルアップが課題である。</li> <li>来年度も複式学級は継続する。「わたり・ずらし」などの授業スタイルの確立やより効果的な学習指導の方法を研修していきたい。</li> <li>教職員が健康で、日々の教育活動に取り組めるよう、働き方改革の推進に今後も取り組んでいきたい。</li> </ul>
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------